

寒川町立南小学校 令和5年度「学校経営方針」

はじめに

子どもは、一人ひとりが幸せを求めよりよく生きていこうとする存在であり、その個性は尊重されるべきです。学校教育は、子ども自身に自己存在感や自己有用感、そして自己肯定感を抱かせるとともに、「人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して」行うことを目的としています。

学校は、人と人との信頼関係を基盤として、様々な人々が相互に関わり合い、表現し合い、学び合う共同体です。ですから、子ども達にとって、楽しく安全な場所であってはなりません。その楽しさは、単に「おもしろい」ではなく、「学び、理解し、できるようになる楽しさ」「難しいことに挑戦してやり遂げる楽しさ」「友達と力を合わせ、心がつながる楽しさ」など、自己実現を伴う楽しさである必要があります。「自立した一人の人として創造的な生き方ができ、よりよく自分を生かそうとする姿」をこれからの時代を創る人の姿として考えています。

南小学校で学ぶ子どもたちが、学校における「生活づくり」を通して、知徳体の調和が取れ、心身が健康で人間性豊かな人に育っていくことを願い、子ども一人ひとりの生涯にわたる学びの基礎を培う学校をめざします。「わたしであってよかった」と思える「わたし」を育てたいと思います。そのために、一人ひとりの思いや願いを大切にされた指導を全教職員が一丸となって取り組み、「子どもも、教師も、保護者も、地域も、喜びを感じる楽しい学校・誇れる学校」づくりを進めていきます。

1. 学校教育目標
「共に学び 助け合い みんな 生き生きと」 ~笑顔輝く心身ともに健康な みなみの子~
 ○仲間と共に意欲的に学ぶ子を育てる（知）
 ○思いやりをもち、お互いを認め合う子を育てる（徳）
 ○仲間と共に活発に遊ぶ子を育てる（体）

2. 二つの問いかけ
 みなみのまど「さわやかな笑顔をしていますか」「なりたい自分を夢みていますか」

3. めざす子ども像
 ○人とのつながりを大切に、互いに認め合える子
 ○学び合う楽しさを知り、自分の思いを伝えられる子

4. めざす学校像
 みなみのまどからみらいがみえる ~がっこうはみんなのうちだ がっこうはたのしいうちだ~
 「かがやく めをみはって いきいきとまなぶ なかよくしながら けんかしてともだちと ころろがかよう」
 ○子どもが毎日学校に行こうと思え、保護者も通わせたいと思える学校
 ○子どものもつ可能性を最大限に引き出そうとする学校
 ○すべての子どもが大事にされる学校

5. めざす教師像
 ○心身ともに健康で明るく、人間性豊かな教師
 ○時代の要請を的確に捉え、指導力、授業力を高め自己研鑽に努める教師
 ○児童、保護者及び地域と連携した教育活動を積極的に推進する教師
 ○人権感覚をもって、子どもとの対話を大切にする教師

今年度の重点目標と具体的な取り組み

「みんなが笑顔でいられるように…」 ~チームとして取り組む~

Communication (コミュニケーション)
 さまざまな人と思慮疎通ができる

Collaboration (コラボレーション)
 協力しあうことができる

Critical Thinking (クリティカルシンキング)
 与えられた答えだけに頼らず、あらゆる問題を自分の力で分析したり解決できる

Creativity (クリエイティビティ)
 創造力を発揮できる (21世紀型4C教育より)

Chance!-Challenge!-Change!

Chance (チャンス)
 ◎機会を作ろう ◎チャンスをつかもう

Challenge (チャレンジ)
 ◎試させよう ◎やってみよう

Change (チェンジ)
 ◎育てよう ◎成長しよう

(1) 仲間と共に意欲的に学ぶ子を育てる <知>

- ①学習保障・学力保障、基礎・基本の定着を図る指導の徹底
 - ・個に応じた指導の充実 (グループ指導・補充学習・教科担任・eライブラリ・基礎力定着確認問題の活用)
- ②主体的・対話的で深い学びの実現→「子どもの学びを核とした授業」をおこなうための授業改善
 - ・全教育活動を通じて主体的・対話的で深い学びを意識した授業実践
 - ・指導目標・指導内容(つけたい力)・めあてを明確にした授業実践
 - ・総合的な学習の時間の充実 ・外国語・外国語活動への取り組みの充実 ・ICT機器の活用
 - ・特別の教科道徳への取り組みの充実 ・家庭学習への援助、町「家庭学習の手引き」の活用
- ③体験的学習場面の重視
 - ・学ぶ喜びの体感、わかった、できた(学ぶことが)楽しい授業の創造、児童の主体性を高める
 - ・地域の先生、外部人材、出前授業、教科担当制等、「専門性」の有効活用と効率化、「人」から学ぶ

(2) 思いやりをもち、お互いを認め合う子を育てる <徳>

- ①コミュニケーション能力の育成
 - ・挨拶の励行…「おはようございます」「さようなら」「ありがとう」「ごめんなさい」等、児童相互の関わりを重視
 - ・異年齢交流 (児童会活動(たてわり活動)、集団登下校)、「人のためになる」活動への主体的な取り組みの充実
 - ・様々な人との関わりを通して意思疎通を図り、人間関係を円滑に構築する機会の重視
- ②読書活動の充実
 - ・読書による豊かな感性の育成、語彙の獲得等の意味づけを行い、読書時間の確保を工夫する
 - ・朝読書を含め、読書活動の質的な充実を図り、自己表現やコミュニケーション能力向上につなげる
- ③道徳教育、人権教育の実践と推進
 - ・「特別の教科 道徳」の授業実践を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる
 - …自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方について考える
 - ・「いじめは絶対に許さない、見逃さない」「ならぬものはならぬ」という確固たる姿勢をもつ
 - …アンケートを毎学期実施し、きめ細やかな対応を行う
 - ・相手を思いやる態度、よさを認める態度、命を大切にすることを育む
- ④学校美化・清掃活動に努める
 - ・ユニバーサルデザインを意識した教室環境づくり、教職員と児童が協力して清掃活動を行う
 - ・学校施設の維持と整備を行い安心・安全な環境づくりに努める

(3) 仲間と共に活発に遊ぶ子を育てる <体>

- ①運動能力の向上
 - ・体育の授業改善、外遊びや運動的・身体的行事を通して、運動する機会を増やす
- ②基本的な生活習慣の確立
 - ・「学校に通う」ための基本的な生活習慣・生活サイクルを確立し、「早寝、早起き、朝ごはん」の定着を目指し、児童および家庭へ向けて積極的に働きかけていく
- ③食育の推進
 - ・望ましい食習慣・食環境、及び食のマナー指導の充実 ・アレルギー対応の推進と充実

(4) 学校経営の重点「みんなが笑顔でいられるように」 ~チームとして取り組む~

- ①AFTERコロナの新しい学校づくり
 - ・基本的な感染症対策を講じながら「話し合い」「コミュニケーション」を重視した対話型の学校づくり
 - ・コロナ禍での制限事項(学校行事・授業参観・体験学習・異学年交流・学校運営協議会・PTA活動等)について、目的やねらいを確認し「検討してから戻す」「切り取りっぱなしにしない」「再構築する」
 - ・学校・学年・学級だよりや懇談会・教育面談等における「子どもについて」の情報提供、意見交換の場の重視
- ②コンプライアンス(法令遵守)の上での特色ある学校づくり
 - ・学習指導要領に準拠した取り組み、教科書採択による新教科書使用への準備
 - ・指導と評価の一体化、評価の妥当性・信頼性の向上、校務支援システム導入による事務処理の効率化
 - ・「特別の教科 道徳」の計画的な指導と、自己を見つめ・自己の生き方について考える場面の重視
 - ・英語専科教員・FLT導入による「外国語」「外国語活動」のTTによる授業充実および学習意欲の向上
 - ・人権意識の高揚に努め、個人情報保護やインターネットの取り扱いなど喫緊の課題に取り組む
- ③「さわやかな笑顔」「なりたい自分」「チャンス」「チャレンジ」「チェンジ」を意識した生活づくり
 - ・夢や希望をもち、「わたしであってよかった」と思える「わたし」を育む
 - ・「言っていないんだ」「試していないんだ」「ダメじゃないんだ」と一人ひとりが思えるように
- ④「交流(コミュニケーション)」「協働」「論理的合理的思考」「創造力」を意識した授業づくり
 - ・論理的合理的思考(思い付きや思い込みに固執せず「本当にこれでよいのか?」を考えること、原因と結果・結論と根拠を結びつけて考えること)を重視した、子どもの思考への支援
 - ・子どもが「学びがい・生きがい・夢」を伸ばす仲間づくり、授業を核とした生活づくり、よさを見つける自分づくりをおこなえる学びの場の創造
 - ・校内研究の充実を起点とした話し合い活動の活性化(名札マグネットの有効活用)
 - ・他者との関わりを大切に、相互作用による集団としての学び・個の学びを縦系横系とした授業デザイン
 - ・一人一台端末を含むICT機器を利用した授業の工夫、プログラミング教育の授業実践への取り組み
 - ・教科担任制・交流授業・交換授業・合同授業等、授業形態を工夫し、みんなで子どもを育てていく
- ⑤防災・安全教育の充実
 - ・「自分の命は自分で守る」意識をもち、避難経路の確認等事前の備えを徹底する
 - ・災害、登下校、不審者対応等、予測できない状況において、自ら考えて行動ができるようにする
 - ・児童の防災意識を高め、教職員が適切な対応が行えるよう準備する
 - ・減災意識(倒れてこないなど)、他者の命への意識をもち、発生しうる被害を最小化する
- ⑥支援教育・支援体制の充実
 - ・教育相談コーディネーターを中心とした支援教育の充実、みんなの教室の活用、特別支援学級(たけのこ級)との連携等、組織としての方針や対応の検討を行う
 - ・全教職員で教育を行う確認をしつつ、特別支援教育に対する理解と推進を図る
- ⑦組織的な人材育成と業務の効率化および学校運営の効率化
 - ・校務に組織的に取り組み、自分事として当事者意識・人材育成意識をもち、工夫改善を試みる
 - ・会議や委員会等の内容の見直しと精選を図り、多忙化解消に努める
 - ・学校教育目標-学年目標-学級目標の有機的連携、行事や取り組みの目的やねらいを明記する
- ⑧事故防止に向けた継続的な取り組み
 - ・信頼される学校を維持し、不祥事ゼロを継続するための、教職員の使命感およびモラルの向上
 - ・適切な対応のために、速やかな報告・連絡・相談の徹底(「報連相は調理して出そう」)
 - ・保護者の話に耳を傾け、丁寧に情報を収集し、誠意をもって対応する
 - ・課題解決に向けて、教員相互が有機的に機能し、迅速かつ正確な対応を心がける